

単位の取扱い（単位付与・認定・
互換）について

○京都大学、関西大学

気候変動下でのレジリエントな社会発展を担う国際インフラ人材育成プログラム

教育プログラムの内容

学部生

①アセアン連携大学での集中講義を組み合わせた海外企業体験プログラム

- ASEAN諸国のインフラ整備現場での**インターンシップ**
- ASEAN連携大学でグループワークや集中講義

②双方向短期留学プログラム

- 日本・ASEANの学生が日本・ASEAN両方の講義・実践を受講
- アクティブラーニングを中心とした実践科目
- 企業での体験活動やインフラ整備現場での**インターンシップ**

③双方向中長期派遣プログラム

- 個別研究プロジェクトを含む中長期派遣
- 国内研修旅行や短期**インターンシップ**による体験活動

④学位取得を見据えた協働学生指導プログラム

- 若手教員による出張講義を含む教育研究指導
- 学位論文の副査を相互に担当
- インフラ施設の**インターンシップ**

⑤気候変動適応のためのウィンタースクール

- データ処理・解析技術とその気候変動適応への実践
- 若手教員の国際化支援
- 日本気象協会などでのデータ分析体験やインフラ整備現場の**インターンシップ**

修士課程

博士課程

単位の取扱い（単位付与・認定・互換）について

実施する講義科目（京都大学大学院工学研究科の正式認定科目）

■ 海外連携大学で実施する科目

Engineering Seminar for Disaster Resilience in ASEAN countries（2単位）

■ 京都大学工学研究科で実施する科目

Disaster and Health Risk Management for Liveable City（2単位）

京都大学工学研究科シラバス

<http://www.t.kyoto-u.ac.jp/syllabus-gs/?mode=main&lang=en>

受け入れ学生の身分

- 短期交流学生としての身分を持つ正式な受け入れ留学生（3か月以内）
- 特別聴講学生としての身分を持つ正式な受け入れ留学生（通常6か月）

上記科目はそれぞれ2週間の集中科目として実施する。アセアン連携大学からの留学生は、短期交流学生の身分を有する受講生とする。

単位の取扱い（単位付与・認定・互換）について

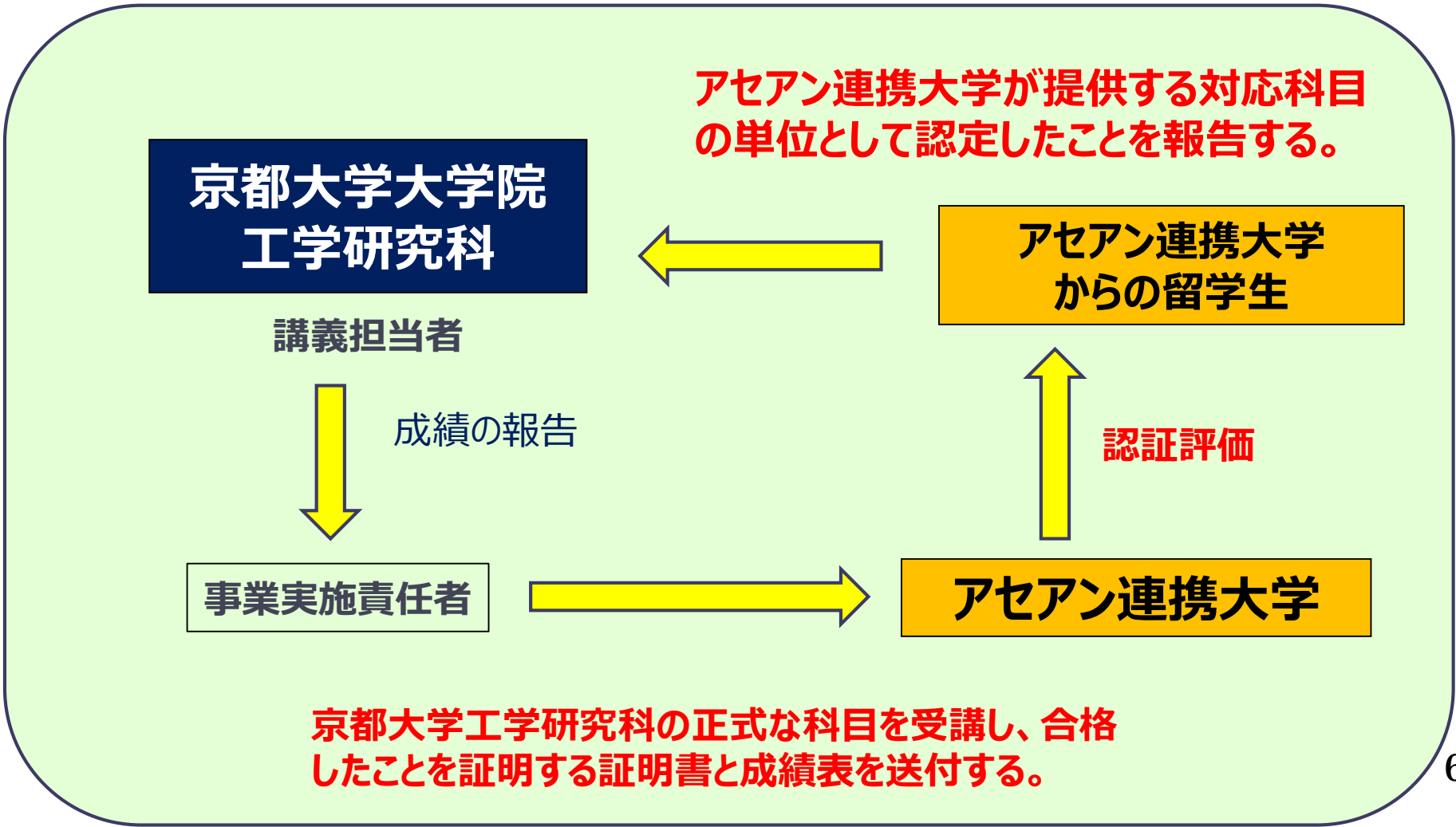
派遣の場合の単位の取扱い（付与・認定・互換等の仕組み）

- 京都大学工学研究科の正式単位となる。
- 京都大学工学研究科の所属教員および学外非常勤講師として認められたアセアン連携大学の教員が実施する正式科目であるため、京大生は合格すれば、正式な2単位となる。関西大学学生も関西大学での正式な2単位となる。

受け入れの場合の単位の取扱い（付与・認定・互換等の仕組み）

- 京都大学工学研究科の正式な科目を受講し、合格したことを証明する証明書を発行する。
- 派遣元となるアセアン連携大学に成績を報告し、アセアン連携大学が提供する対応科目の単位として認定する。派遣元大学のどの科目の単位に認定するかは、事前に打ち合わせる。

受け入れの場合の単位の取扱い（単位付与・認定・互換）のスキーム



東京外国語大学

日本発信力強化に貢献するミャンマー・ラオス・
カンボジア知日人材養成プログラム

1. 単位の取扱い（単位付与・認定・互換）について

(1) 短期留学

①派遣

- ・「短期海外留学」科目に履修登録し、留学前・留学後教育の取り組み状況を勘案し、2単位を認定している。
- ・派遣先大学では、2～3週間、正規の授業を履修したり、各言語を学ぶほか文化、社会体験や現地学生とのタンDEM学習・交流などを行っている。



ラオス国立大修了証書授与式

②受入

- ・1～4週間、協定校教員による講義や日本文化に関する講義など本学学生とのタンDEM学習を行い、参加証明書を発行している。タンDEM学習の後日本語のプログラムに参加するラオスの学生には、修了証・成績証明書も発行される。



(2) 交換留学

①派遣

- ・平成28年度派遣の学生6名(ヤンゴン大学2名、ラオス国立大学2名、王立プノンペン大学2名)の留学先で付与された単位について、最大31単位から14単位を本学の単位として認定した。
- ・派遣先では、各言語での授業を履修するほか日本語教育に関する支援活動を行っている。



ラオス国立大学における授業風景



王立プノンペン大学における交流

②受入

- ・平成28年度受入の学生6名(各国2名)の本学における単位認定は最大30単位から25単位で、この成績証明書を英文で交付している。
- ・単位互換については、先方大学の規定により行われるため、その状況を確認している。

大学名	受入数	本学付与 単位数	互換完了	互換予定	互換不可
ヤンゴン大学	2	1:26単位 2:28単位	0	0	0
ラオス国立大学	2	1:25単位 2:28単位	0	1	1
プノンペン大学	2	1:28単位 2:30単位	2*	0	0

* 本学での1年分の単位をまとめて1年分(3年次)を認定している。

2. 海外相手大学との調整にあたっての課題等

(1) 単位互換の実施

学事日程表、シラバスがすべてウェブサイトに掲載されていないなど、単位互換に必要な書類の入手などに時間を要する。

(2) ビザの取得

国によってはビザの取得が滞り、出発間際になることや、ビザの延長手続きがスムーズではない。

(3) 交流プログラムの増加への対応

世界各国の交流プログラムの急増や特定の大学への集中により、協定校側の担当スタッフが対応困難な状況が生じている。

(4) 国や大学の体制

- ・ 交流事業に対して、国によっては教育省の許可が必要となり、許可のために2～3ヵ月を要する。
- ・ 連携先大学に、国によっては事務部門が設けられていないため、特定の教員に業務が集中する。

東京藝術大学

日ASEAN芸術文化交流が導く多角的プロモーション

～協働社会実践を通じた心のインフラと質保証フレームの構築～

単位の取扱い（単位付与・認定・互換）について

■本事業における教育プログラムの大部分は、これまでのところ、本学と連携大学の双方の教員・学生ユニットによる共同授業・協働社会実践という形をとっている。

例）2017年度に実施中のカンボジア王立芸術大学との共同プロジェクト

招聘	教員2名と学生3名を招聘し、本学の彫刻専攻における「石彫道具づくり」のワークショップや、京都での「古美術研究旅行」に参加。
派遣	教員3名と学生5名を派遣し、上記で本学に招聘したメンバーとともに、アンコール遺跡の修復現場において石彫ワークショップを実施。
備考	派遣・招聘時の参加メンバーは双方同じであり、招聘時に制作した石彫道具を派遣時のワークショップで使用するなど、連続性を持たせている。 アンコール遺跡でのワークショップは、JASA（日本国政府アンコール遺跡救済チーム）の協力を得て企画・実施している。

■上記のようなプロジェクトに参加する短期の交流学生は、本学や相手大学の在籍身分が与えられたり、特定の授業科目を履修して単位を取得したりするわけではない。

■交流学生は、双方の協議により個別に企画・実施されるプロジェクトに参加し、それぞれの目的を持って学修を行い、そのプロセスやレポート・作品等により、在籍大学の実技科目や研究室の演習科目の活動の一部として、成績評価の際に加味される。¹²

新潟大学

メコン諸国と連携した地域協働・ドミトリー型融合教育による理工系人材育成



メコン諸国と連携した 地域協働・ドミトリー型融合教育による 理工系人材育成

単位の取扱いについて



新潟大学



王立ポンペン大学



ラオス国立大学



チュラロンコン大学



ハノイ工科大学



- ①短期プログラム
(10日間)
- ②中期プログラム
(2ヶ月間)
- ③長期プログラム
(6~12ヶ月間、DDP含む)

期間・対象
(派遣・受入共通)

← 学部生対象 →

← 大学院生対象 →

「最終報告会
(英語での質疑
応答)」

企業による「学生
評価書:5段階」

聴講科目等の「学内活動
内容の内訳記録」(単位取
得の際は成績書等添付)

研究指導教員に
よる「学生評価
書:5段階」

必修科目

国際グループワーク(GW)インターンシップ

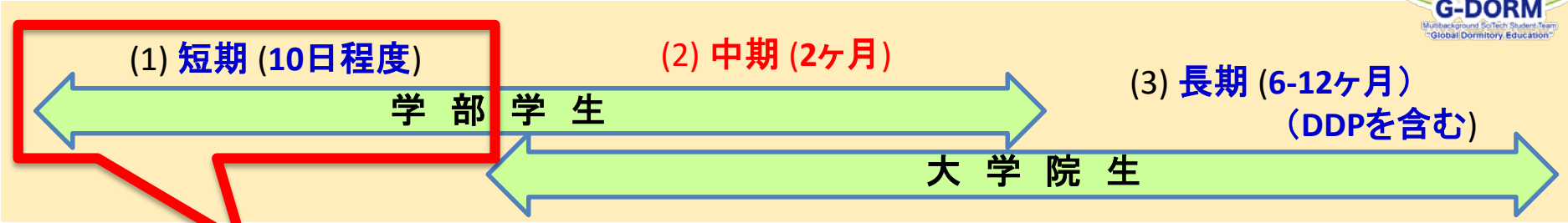
短期	企業活動と国際社会との接点の理解 (事前事後学習, 学外4日間程度) ⇒中長期への意欲向上
中期	企業活動の国際的役割の課題の発見・分 析・解決(事前事後学習, 学外1ヶ月間程度)
長期	企業活動の国際展開のための課題の発見・ 分析・解決(事前事後学習, 学外2ヶ月間程度)

+

選択科目

地域文化 理解科目	GW・研究の テーマに関連 する専門科目	(主に大学院生) 研究関連科目
英語によ る科目(新 潟大の 例: 国際 工学事情 など)	英語による科 目(新潟大の 例: 国際工学 概論など)	研究活動やセミ ナーなどのLab- Work科目(長期 の博士後期は DDP選択可)

派遣先大学では、国際GWインターンシップ期間外での単位修得(英語による科目)は困難な状況であったが、部分的な聴講出席が認められた科目はあった。<派遣先大学での履修科目の充実と、アカデミックカレンダーと留学時期とのコーディネートが大切>



短期プログラムの修了要件: 2単位

- ・必修科目 (2単位)
- ・選択科目 (0単位 +): 講義 (1単位+)

修了認定
最終成果報告会



必修科目: GWインターンシップ
(グループのメンバーの全員が参加)

2単位

GWインターンシップ
“国際テクノロジー/マーケット GWインターンシップA, [学部生, 2単位]”

(PBL研修 [4~5日])
⇒ 中/長期プログラムへの意欲喚起

選択科目(新潟大学の場合の例)

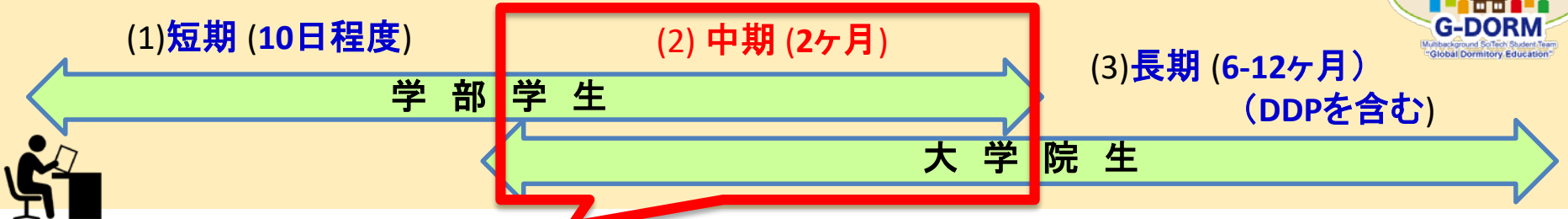
1単位

地域文化理解科目
“国際工学事情 [学部生, 1単位]”.

1単位

GWテーマに関連する専門科目
“国際工学概論 [学部生, 1単位]”, など

短期 (10日程度)



中期プログラムの修了要件: 4単位

- ・必修科目 (3単位)
- ・選択科目 (1単位 +): 講義(1単位+)および研究活動科目(1単位+)

修了認定

最終成果報告会

必修科目: GWインターンシップ
(グループのメンバーは同じインターンシップテーマを学ぶことを基本とする)

3 単位

GWインターンシップ

- “国際テクノロジー/マーケットGWインターンシップB [学部, 3単位]”,
- “先端的国際テクノロジー/マーケットGWインターンシップA [大学院(M), 3単位]”,
- “高度先端的国際テクノロジー/マーケットGWインターンシップA [大学院(D), 3単位]”;

(PBL研修 [1ヶ月] ⇒ 長期プログラムへの意欲喚起)

選択科目(新潟大学の場合の例)

1 単位 +

地域文化理解科目

- “国際工学事情[学部, 1単位], 先端的/高度先端的国際工学事情 [大学院(M/D), 1単位]”, など

1 単位 +

GW/研究テーマに関連する専門科目

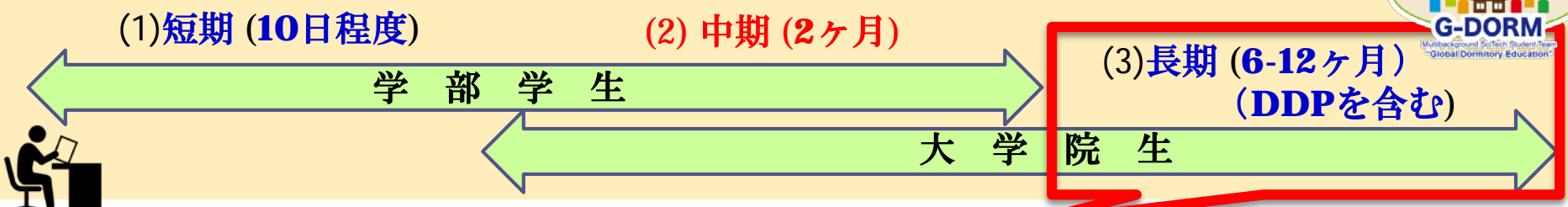
- “国際工学概論[学部, 1単位], 先端的/高度先端的国際工学概論 [大学院(M/D), 1単位]”, など

1 単位

研究活動

- “理工系/高度理工系グローバルドミトリー特定研究A [大学院(M/D), 1単位]”.

中期 (2ヶ月)



長期プログラムの修了要件: 8単位

- 必修科目 (4単位)
- 選択科目 (4単位+) : 講義(2単位+)および研究活動科目(2単位+)

修了認定
最終成果報告会

必修科目: GWインターンシップ
(グループのメンバーの全員が参加)

4 単位

GWインターンシップ
“先端的国際テクノロジー/マーケットGWインターンシップB [大学院(M), 4単位]”,
“高度先端的国際テクノロジー/マーケットGWインターンシップB [大学院(D), 4単位]”;
(PBL研修 [2ヶ月])

長期 (6ヶ月+)



選択科目 (新潟大学の場合)

1 単位 + 地域文化理解科目
“先端的/高度先端的国際工学事情 [大学院(M/D), 1単位]”, など

1 単位 + GW/研究テーマに関連する専門科目
“先端的/高度先端的国際工学概論 [大学院(M/D), 1単位], 理工系/高度理工系グローバルドミトリー・セミナーA/B [大学院(M/D), 1/2単位]”, など

2 単位 + 研究活動
“理工系/高度理工系グローバルドミトリー特定研究B/C [大学院(M/D), 2/4単位]”.

名古屋大学

ASEANと日本を繋ぐ「グローバル・ソフトインフラ基礎人材」育成プログラム

単位の取扱い（単位付与・認定・互換）について

派遣と受入の総合型

王立農業大学（カンボジア）との連携

単位付与：合計5単位

- 「国際農学演習」2単位
 - ▶ 事前研修（英語で実施）：カンボジアの歴史や社会、産業などに関するグループワークと発表・討論。危機管理オリエンテーション（日本語で実施）。
- 「海外実地研修」1単位
 - ▶ 研修中：王立農業大学（RUA）の学部3～4年生とチームを組み、政府機関、農村、企業、マーケットなどでの調査・インタビューを実施。最終日には、調査結果のプレゼンテーションを実施。
 - ▶ 事後研修：研修成果の総括。
- 「海外学生受入研修」2単位
 - ▶ 王立農業大学の学生を受け入れ、国内での研修やフィールドワークを踏まえ、グループワークや討論、発表を行う。

単位の取扱い（単位付与・認定・互換）について

大学院生の派遣

海外実地研修（Overseas Fieldwork）

単位付与：合計8単位

- 事前研修（講義、グループワーク）4単位
- 実地研修（3週間）4単位

4つの課題：

- ① 事前研修に基づく現地調査計画の作成・発表
- ② 現地調査に基づき現地関係者に対して行われる発表会
- ③ 帰国後、学内関係者に対する報告会
- ④ 報告書の執筆

単位の取扱い（単位付与・認定・互換）について

海外大学の学部生受入

- 1週間から2週間程度の受入プログラム。
- 連携大学で単位の認定を受けるため、必要な時間の講義や学生による活動を計画する。
- 企業訪問では、単純な工場見学ではなく、企業からの講義や課題に基づくワークショップを組み込む。
- 本学の学生とグループワークを実施し、その成果を発表させる。また、発表の資料を活動の成果として提出させる。
- 事後的にプログラム参加に関する報告書を提出させる。
- 受入大学として参加学生の参加証を発行する。
- 連携大学は参加証や成果から単位を認定する。

○広島大学、広島経済大学

CLMV諸国の持続可能な平和、幸福、発展に貢献
する研究力と社会起業力の融合人財育成

平成28年度「大学の世界展開力強化事業」採択校連絡会
2018年1月31日

CLMV 諸国(Cambodia, Laos, Myanmar, Vietnam)の持続可能な
平和, 幸福, 発展に貢献する研究力と社会起業力の
融合人財育成 (PEACE) 学生交流プログラムの取り組み

*Project of Effective Action with CLMV 's Education to promote the Capacity of
Research and Social Planning for Peaceful, Inclusive and Sustainable Development*



広島大学

(連携協力大学)



広島経済大学
Hiroshima University of Economics

申請者

広島大学 学長

越智光夫

事業責任者

広島大学 副学長 (国際交流担当)

丸山恭司



広島大学の国際戦略に対する本事業のシナジー効果



研究大学強化
促進事業に採択



TOP GLOBAL
UNIVERSITY
JAPAN

スーパーグローバル大学
「タイプA」(トップ型)に採択



世界をキャンパスとした 世界トップ100の総合研究大学

	H28	H35
●留学生受入数(人)	2,026	3,600
●日本人留学経験者数(人)	441	1,452
●外国語による授業数	1,837	4,868
●日本人の英語能力向上(%) (iBT=80以上)	9.1	50
●外国人教員等(%)	35	53

- キャンパスの国際化
- 世界を牽引するリーダーの養成--に注力



対アジア戦略として



CLMV諸国との連携強化

シナジー効果

広島大学PEACE 学生交流プログラム

対国家とのMOUにより

- ◎ 100大学以上との連携拡大
- ◎ 流動性の高い教育プログラムに発展

全学一致体制を整えて本事業に取り組む
(教育学部, 生物生産学部, 工学部など)

世界展開に向けた取組



カンボジア国内67大学と連携可能



ミャンマー国内126大学と連携可能

カンボジア教育大臣とのMOU調印式 (H28年3月)

ミャンマー教育省とのMOU調印式 (H28年3月)

- ◎日本ではじめて、カンボジアとミャンマーの教育省と広島大学間でMOUを締結
- ◎両国の高等教育全体への貢献を約束

- ◎ミャンマー政府主催ワークショップに貢献 (126機関学長・副学長参加) (H30年1月)

- ◎カンボジア王立・国立トップ8大学とMOUの締結 (H29年11月達成)



- ◎広島大学がACTFA (アジア学術単位互換枠組) の構築を主導 (ASEAN諸国政府・アジア開発銀行・6ヶ国24大学)





背景・目標とする人財育成

大学の理念

- ◎ 平和を希求する精神
- ◎ 国際社会との共存

広島大学国際戦略



- ・国際的な実践現場で活躍できる人財育成
- ・国際協力・貢献の推進
(= 平和構築・真の幸福追求)



- 500名以上のCLMV留学生を輩出
- 彼らは現在、母国の政府・大学等の要人として活躍
- 現地の発展に立ちはだかる多くの課題が寄せられる

広島大学



国連が推進する「持続可能な開発目標 (SDGs)」



本事業は、CLMV諸国の---

- 17のSDGsに沿った持続的開発
- 社会インフラ整備

---に貢献する人財を育成する

PEACEの6つの能力開発教育を通じて

- ◎ 真理を見極める**研究力**
- ◎ 新規事業，政策，起業計画を立案できる**社会起業力** -----を養成





教育プログラムの全体像

6つのタイプの英語による教育が連携して、2つのコンピテンシーを育む



受入学生



派遣学生

基礎語学力養成

① 日本語

① ESP (専門分野別英語)

研究力養成

データ分析, 科学的な原因究明, 課題を明確にする「力」

② 5分野のSDGs対応専門教育

② 現地での専門科目履修

③ 国際課題研究

- 個人研究
- 論文作成・発表能力を向上

社会起業力養成

課題の原因を理解し 創造的で具体的な事業・政策立上げの行動「力」

④ SDGs関連社会起業家養成科目 (日本企業・社会企業研究科目)

- SDGsに貢献する企業・組織 (エフピコ, 広島市立「中(ゴミ焼却)工場」等)で研修
- アジアと世界のSDGs関連企業に関するACTIVE LEARNING (調査発表)
- 広島経済大学とSDGs アイデア発掘型セミナー共同開催

起業・政策立案能力の開発

⑤ SDGsアイデア発掘型学生セミナー(新規開講)

- アジア地域における実社会の課題について, 実現性の高い政策やビジネス企画等を立案する, 多国籍・多分野の学生による合同セミナー

4つのステップ

- ① Mass Data Collection
- ② Idea Mining-Analysis
- ③ Writing a Proposal
- ④ Proposal Competition



単位の取り扱いについて

UCTSを活用した質保証の伴った学生交流事業の展開



単位の取扱い(単位付与・認定・互換)について

- UMAP (アジア太平洋大学交流事業) の下, アジア・太平洋諸国間の学生交流を促進するために開発された UCTS (UMAP単位互換制度) を2000年より活用、その全国的な普及にも取り組んできた。

2013年度に 新たなUCTSの概念 が導入され、本事業でも活用している

- 1UCTS = 38~48学修時間とする
- その学習時間数には, 13~16時間の授業時間数 (academic hour) が含まれる



この概念により, 本学の1単位は1UCTSとなり, 多くのアジア・太平洋諸国の高等教育機関と相互の単位を等価とみなすことが可能に

広島大学の1単位のおける他地域における換算基準

広島大学 (UCTS採用機関)	1 単位
アジア諸国 (UCTS採用機関)	1 単位
米国 (全米約6割の機関)	1 単位
欧州 (ECTS採用機関)	1.5 単位
英国 (CATS採用機関)	3.0 単位
南米 (CLAR採用機関)	1.5 単位

UMAP学修計画書の活用

< UCTS学修計画書 (受入学生) >




Hiroshima University | PEACE Student Exchange Program

3. DETAILS OF THE PROPOSED UCTS STUDY PLAN
 [NOTES]: ● To be completed and signed by student and counter-signed by the academic advisor/ staff members of both institutions.
 ● In addition to professional courses that students will need to take, PEACE (undergraduate) students whose period of study abroad will be one term or more are required to take a course titled *Study on International Issues and Challenges*.

List of course numbers and titles of courses you would like to register at host institution and transfer to home institution				Credits	
Host Institution (Hiroshima University)		(Your) Home Institution		HOST	HOME
Course #	Title	Course #	Title	Credits	Credits
	Special Study on International Study issues and challenges (Education)		Applied Ethics	2	3 (※)
	Research Methods in Education		Philosophical Research Methods	2	3 (※)
	Decision Making Analysis in Education		Social & Political Philosophy	2	3 (※)
	Sustain Development in Education		Epistemology	2	3 (※)
	able				

NOTE: If necessary, continue the list on a separate sheet, including any changes to the approved program.

4. CONFIRMATION OF AGREEMENT ON STUDY PLAN BY ALL THREE PARTIES
 This form must be signed by student and also counter-signed by the academic advisor/staff members for both institutions' approval.

Student	Home institution's academic advisor/ staff member	Host University's academic advisor/ staff member
Signature: 	Signature: 	Signature: 
Title: _____	Title: <i>Program Assistant</i>	Title: <i>Program Officer</i>
Date: <i>February 16, 2017</i>	Date: <i>March 15, 2017</i>	Date: <i>June 30, 2017</i>

※ 派遣元大学にて1単位相当の課題を講義により、3単位に互換する。

< UCTS学修計画書 (派遣学生) >

Hiroshima University | PEACE Student Exchange Program

UMAP CREDIT TRANSFER SCHEME (UCTS) STUDY PLAN (Outgoing)
UMAP 単位互換方式 (UCTS) 学修計画書 2017/2018 (派遣)

1. STUDENT'S PERSONAL DATA / 派遣学生の個人データ
 The following information provided by the student will be treated as non-confidential information. The form before may be used for UCTS related programs, faculty or an approved and non-transferable manner. 以下の個人情報は、派遣学生本人の提供によるもので、本学および本学が関係するすべてのプログラム、学術的、教育目的、および本学が関係するすべてのプログラムにのみ使用され、他の機関への提供は認められません。また、本学が関係するすべてのプログラムにのみ使用され、他の機関への提供は認められません。

Student's Name: _____ Country: _____
 Home Institution: HIROSHIMA UNIVERSITY Country: JAPAN

2. DETAILS OF THE PROPOSED UCTS STUDY PLAN / 派遣された UCTS 学修計画書の詳細
 The following is agreed by student and counter-signed by the academic staff members of both institutions. 以下の学修計画書は、派遣学生本人、派遣元大学、および派遣先大学の教員等によって承認されたものである。

Course code / 派遣元学修番号	Course title / 派遣元科目名	Credits / 派遣元単位数	Host Institution / 派遣先機関	UCTS / UCTS	Home Course / 派遣先科目名	Credits / 派遣先単位数
	<i>英文読解</i>				<i>英語文法</i>	

Note: If necessary, continue the list on a separate sheet, including any changes to the approved program, which must be signed and counter-signed by student and also counter-signed by the academic staff members of both institutions. 以下の学修計画書は、派遣学生本人、派遣元大学、および派遣先大学の教員等によって承認されたものである。

Student's signature: _____ Date: _____
 We agree that the proposed program fully plans approval. 以下に派遣された学修計画書が派遣先機関によって承認されたことを確認する。

Home Institution (派遣元大学) 学修計画承認書			Host Institution (派遣先機関) 学修計画承認書		
Signature: _____	Title: _____	Date: _____	Signature: _____	Title: _____	Date: _____

● 受入学生 (単位取得型) 27人の科目履修状況 (累計)

- 履修科目数: **125科目以上**
- 履修単位数: **262単位以上**
- 修得単位数: **114単位以上**

● 派遣学生 (単位取得型) 8人の科目履修状況 (累計)

- 履修科目数: **8科目以上**
- 履修単位数: **24単位以上**
- 修得単位数: **24単位以上**



UMAP成績証明書の活用

<UMAP成績証明書(受入)>

UMAP CREDIT TRANSFER SCHEME (UCTS) RECORD OF TRANSCRIPT (Inbound) 2017-2018

1. STUDENT'S PERSONAL DATA

To be completed by the student. The information provided in this form will be treated in confidence by the home and host institutions. Data from the form may be used for UMAP/UCTS statistical purposes, but only in an aggregated and non-identifiable manner.

Student Name		Date of Birth	
Student ID (Home Institution)		Sex	
Home Institution		Country	

2. RECORD OF TRANSCRIPT

Host Institution (Hiroshima University)				Home Institution			Host	Home
Course #	Course Title	Term	Grade	Course #	Course Title	Grade	Credits	

If necessary, continue the list on a separate sheet ("4. ADDITIONAL SHEET FOR RECORD OF TRANSCRIPT").

3. CERTIFICATION OF UMAP STUDY PROGRAM

Host Institution (Hiroshima University)	Home Institution
Signature _____ (Signature of Registrar/Dean/Administration Officer)	Signature _____ (Signature of Registrar/Dean/Administration Officer)
Date _____ (Year) (Month) (Day)	Date _____ (Year) (Month) (Day)

This document is not valid without the signature of the registrars/deans/administration officers of the host and home institutions.

慶應義塾大学

LL.M.を用いたメコン地域諸国大学との協働によるアジア発グローバル法務人材養成プログラム（PAGLEP）の形成

単位の取扱い（単位付与・認定・互換）について

派遣の場合

- ・短期（3ヶ月未満）

エクスターンシップ（海外）科目として履修登録。

合格・不合格（PまたはF）で成績評価し、合格者には1単位を付与する。

- ・中期・長期（6ヶ月および1年）

次年度から派遣を始めるため、現在までの実績はない。

→

ヤンゴン大学（ミャンマー）を除く、6大学（ハノイ法科大学、ベトナム国家大学ホーチミン市経済法大学、パニヤサストラ大学、ラオス国立大学、タマサート大学）との間ではMOAを締結することができた。今後は協定に従って、単位付与・認定が行われる予定である。

単位の取扱い（単位付与・認定・互換）について

受入の場合

表1 プログラム開始から現在までの受入実績

	2016年度	2017年度	2018年度
3ヶ月未満	0	14 <small>（ベトナム, カンボジア, ラオス, ミャンマー）</small>	未定
6ヶ月	1（ベトナム）	2（ベトナム）	1（ミャンマー・予定）
1年	0	2（ベトナム）	1（ベトナム）

・短期（3ヶ月未満）

2017年8月に提携大学からの留学生向けに行った夏期セミナーにおいて、KLSからの単位付与は行わなかった。

→

ただし、派遣元大学が本プログラム参加者に対して単位を付与することは妨げないという取扱いをした。

派遣元大学での手続用に学生へプログラム参加修了書を発行した。

単位の取扱い（単位付与・認定・互換）について

受入の場合

・6ヶ月の受入

協定校とのMOA締結前の取扱い

KLSでは、ハノイ法科大学（ベトナム）から交流協定締結前に学生1名を受け入れた。当該学生は、6ヶ月の留学終了後、KLSへ正規生として進学したため、KLS LL.M.コース入学後、留学期間中に当該学生が取得した科目を単位認定するという形で、不利益にならないよう手続を採った。

*現在、ヤンゴン大学（ミャンマー）を除く、6大学（ハノイ法科大学、ベトナム国家大学ホーチミン市経済法大学、パニャサストラ大学、ラオス国立大学、タマサート大学）との間ではMOAを締結することができた。
今後は協定に従って、単位付与・認定が行われる予定である。

課題

ヤンゴン大学とのMOA締結が不可欠である。しかし、ミャンマー国内の事情により、大学間の協定締結が停止している。

MOAがない場合、VISAの取得、単位認定、その他の学生支援も含めて、留学が非常に難しくなる。

現在、あらゆるチャンネルからMOA締結を試みているが実現していない。この問題は一大学のみで解決できる問題ではなく、国によるサポートが必要不可欠である。

単位の取扱い（単位付与・認定・互換）について

受入の場合

・1年の受入

KLSでは、1年の留学受入は学位取得型として正規生としての受入をしている。正規生に対しては、KLSが単位を付与する形式を採っている。

単位認定の実績

6ヶ月の留学生が、正規生としてKLSに入学した際、当該学生が留学期間中に取得した単位を単位認定した。

→

在学期間中に取得すべき単位数の一部が取得済みとなったことで、日本語科目の学修に時間を当てることができるようになった。

明治大学

CLMVの持続可能な都市社会を支える共創的教育システムの創造

単位の取扱い（単位付与・認定・互換）について （派遣プログラム）

《明治大学全体の取り組み》

- 長期派遣プログラムでは、派遣先大学で修得した単位を、明治大学の単位に認定している。認定の際は、成績証明書や修得した科目シラバス等から、授業時間数や授業内容を確認している。
- 短期派遣プログラムでは、多くのプログラムが明治大学の開講科目の単位として単位付与している。また、国際教育センターが実施している全学部の学生が参加できるプログラムでは、全学部共通科目の単位として単位付与している。

単位の取扱い（単位付与・認定・互換）について （派遣プログラム）

《事業取組部局の取り組み》

- 政治経済学部では、タイ短期派遣プログラム・ベトナム短期派遣プログラムでは、「海外留学演習」の単位として4単位を付与している。
- 理工学部・理工学研究科では、「国際実習（1単位）」としてバンコクで実習を行い、12名の履修があった。また、理工学研究科では、海外で実施するワークショップは、大学院科目「設計スタジオC（4単位）」、「Independent Study（2単位）」の2科目で合計19名（16名＋3名）の履修者があった。（2017年度実績）
- 情報コミュニケーション学部では、長期派遣プログラムにて留学をした学生が留学先大学で修得した単位を「留学関係科目」として認定している。また、短期派遣プログラムでは、プログラムへの参加に加えて、受入プログラムの支援、帰国後の成果報告、レポート作成等を合わせて、「国際交流」の単位として2単位を付与している。

単位の取扱い（単位付与・認定・互換）について （受入プログラム）

《明治大学全体の取り組み》

- 長期受入プログラムでは、受け入れる外国人留学生を正規生として、学籍登録している。また、明治大学で修得した単位については、明治大学が発行する成績証明書を、各科目シラバスとともに所属大学（派遣元大学）へ持ち帰り、所属大学において単位認定を受けている。
- 短期受入プログラムでは、所属大学の開講科目の単位として単位付与されている。また、一部のプログラムでは、プログラム修了書を発行し、それを基に、所属大学が単位認定を行っているケースもある。

単位の取扱い（単位付与・認定・互換）について （受入プログラム）

《事業取組部局の取り組み》

- 政治経済学部が実施している「アジア・太平洋短期受入プログラム」では、政治経済学部からプログラム修了書を発行し、所属大学（派遣元大学）の開講科目の単位として単位付与されている。
- 理工学部・理工学研究科では、建築・都市学専攻国際建築都市デザイン系の演習科目「Advance Design Studio A」の一環でチュラロンコン大学の学生14名を5月に受入れ、ワークショップを共催した。チュラロンコン大学では「International workshop」という科目で3単位付与されている。（2017年度実績）
- 情報コミュニケーション学部では、短期受入プログラムに参加した学生に対してプログラム修了書を発行し、参加学生は所属大学（派遣元大学）にて「Intercultural Communication」等の科目の単位認定を受けている。